

施工時活用評価表

様式6-1

技術名 KV5ストレナー	登録 No.
	22D1001

施工内容	
施工年度	平成28年度
発注機関	魚沼地域振興局
工事名	井戸堀替え工事
施工地	魚沼市親柄
施工数量	1井戸(φ250×100.0m)

新技術の概要
丸孔削孔した硬質塩化ビニル管(VP)にステンレス製Vスロット巻線を装着した高強度かつ取水性能に優れた地下水取水井戸用ストレナー。



図1 KV5ストレナーイメージ図

活用評価結果

比較した従来技術	ケーシング(ストレナー加工済)φ250巻線型	
項目	評価	評価内容
経済性	△	施工費は割安であるが、材料費が割高であり、経済性はやや低下。
工程	◎	従来の溶接接合に比べ、接着剤及びビスで接合するため工程は短縮。
品質 出来形	◎	部材が高強度かつ腐食に強く品質は向上。
安全性	◎	部材が軽量なため移動式クレーンの補助が不要となり安全性は向上。
施工性	◎	部材が軽量であり接合も容易であるため施工性は向上。
環境	○	長期使用による省資源化が期待できるため環境性は向上。
その他	高強度かつ腐食に強く長期使用が見込まれるため、ランニングコストの低減が期待できる。	

◎:優れている ○:やや優れている
□:従来技術と比べて同程度
△:やや劣っている ×:劣っている

活用上の留意点	
---------	--

新技術問い合わせ先	
会社名	株式会社 興和
所属部課	水工部
担当者	小酒 欽弥
TEL	025-281-8816



写真1 ストレナー巻線部



写真2 ストレナー設置作業状況

活用調査表

様式6

技術名 KVSストレーナ	登録 No.
	22D1001

施工内容	
施工年度	平成26年度
発注機関	新潟地域振興局津川地区振興事務所
工事名	(一)角島鹿瀬線 道路融雪施設(補修)さく井工事
施工地	東蒲原郡阿賀町向鹿瀬地内
施工数量	1井戸(φ300×24.0m)ストレーナ8m

新技術の概要
丸孔削孔した硬質塩化ビニル管(VP)にステンレス製Vスロット巻線を装着した地下水取水井戸用ストレーナ。耐食材料の組合せにより地下水質への影響を抑え(亜鉛溶出なし)、深度100m級の井戸に必要な強度を備え、連続的なVスロット巻線で取水性能にも優れたストレーナである。



図1 KVSストレーナイメージ図

トライアル工事での評価結果

比較した従来技術	SGP亜鉛メッキ鋼巻線スクリーン	
項目	評価	評価内容
経済性	△	耐久性の高い材料を使っている分、イニシャルコストは従来技術より割高となる。
工程	◎	従来の溶接接合に比べ、接着剤+ビス止であり、施工工程が短縮される。
品質出来形	◎	腐食・錆の付着等のリスクが少なく、高い取水能力が確保でき、品質向上が期待できる。
安全性	◎	ケーシング材の総重量が軽減されるため、落下物災害のリスクが減少する。
施工性	◎	溶接の工程がなくなり、作業が容易になる。
環境	○	掘替頻度が減少し、環境負荷の低減が期待できる。
その他	イニシャルコストは割高だが、長期使用が期待でき、更新費や維持管理費を考慮すると割安と考えられる。	

◎:優れている ○:やや優れている
□:従来技術と比べて同程度
△:やや劣っている ×:劣っている

活用上の留意点	
---------	--

新技術問い合わせ先	
会社名	株式会社 興和
所属部課	水工部
担当者	小酒 欽弥
TEL	025-281-8816



写真1 ストレーナ巻線部



写真2 ストレーナ設置作業状況

活用調査表

様式6

技術名 KVSストレーナ	登録 No.
	22D1001

施工内容	
施工年度	平成25年度
発注機関	新潟市
工事名	結市之瀬線(荻島3丁目地内)消雪パイプさく井工事
施工地	新潟市秋葉区荻島3丁目地内
施工数量	1井戸(φ250×96.0m)

新技術の概要
丸孔削孔した硬質塩化ビニル管(VP)にステンレス製V型スロット巻線を装着した地下水取水井戸用ストレーナ。耐食材料の組合せにより地下水質への影響を抑え(亜鉛溶出なし)、深度100m級の井戸に必要な強度を備え、連続的なVスロット巻線で取水性能にも優れたストレーナである。

トライアル工事での評価結果

比較した従来技術	樹脂丸穴＋ステンレス網巻ストレーナ	
項目	評価	評価内容
経済性	△	材料コストが高く施工費が割高となる。
工程	□	管設置方法は、従来技術と同じため、工程は変わらない。
品質出来形	◎	ストレーナの閉塞リスクが軽減され、耐久性の大幅向上が期待できる。
安全性	□	管設置方法は、従来技術と同じため、同程度である。
施工性	□	管設置方法は、従来技術と同じため、同程度である。
環境	○	耐久性が大幅に向上し、省資源化につながる。
その他	初期コストは割高だが、耐久性の大幅向上と維持管理費、更新費を考慮するとライフサイクルコストの向上が見込める。	

◎:優れている ○:やや優れている
□:従来技術と比べて同程度
△:やや劣っている ×:劣っている

活用上の留意点	100m以深の井戸への導入は、施工条件を検討し判断する必要がある。
---------	-----------------------------------

新技術問い合わせ先

会社名	株式会社 興和
所属部課	水工部
担当者	小酒 欽弥
TEL	025-281-8816



図1 KVSストレーナイメージ図



写真1 ストレーナ巻線部



写真2 ストレーナ設置作業状況